

## 平成29年度 幸小学校 授業改善推進プラン

### 1 幸小における目指す学力

本校では、学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、以下の力の向上を目指す

- ・言語活動による表現力
- ・基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ・思考力・判断力・表現力等の育成
- ・話し合い活動の充実

### 2 児童の現状

(29年度データ)

☆各教科の調査結果（正答率 %）

教科	A 教科の内容		B読み解く力に関する内容		AとBの合計	
	5学年	東京都	5学年	東京都	5学年	東京都
国語	61.7	67.5	63.3	71.4	62	69.1
社会	73.4	76.1	55.7	61.9	68	71.8
算数	59.3	63.7	44.9	47.9	56.6	60.7
理科	65.1	69.4	80.4	78.9	69.7	72.2

☆観点別の調査結果（正答率 %）

教科	A 教科の内容							
	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		知識・理解		読む	
	5学年	東京都	5学年	東京都	5学年	東京都	5学年	東京都
国語	90.6	94.6	71	71.2	47.8	59.7	57	65.7
社会	93.5	89.1	78.7	75.5	50	66.4		
算数	88.4	92.4	46.8	50.3	62.3	65.6		
理科	92	93.2	59.4	66.5	60.9	66.5		

教科	B 読み解く力に関する内容					
	取り出す力		読み取る力		解決する力	
	5学年	東京都	5学年	東京都	5学年	東京都
国語	62.3	83.4	60.9	64.7	66.7	66.9
社会	69.1	75.3	46.4	51.8	44.9	52.1
算数	69.6	74.4	59.4	61.8	5.8	7.5
理科	84.1	83.8	79.7	77.6	77.5	75.3

#### ○各教科の内容について

- 各教科とも、都平均を下回る結果であった。
- 国語では、教科の内容が、5.8ポイント、読み解く力が8.1ポイントと下回っている。教科の内容では、「知識・理解」が、11.9ポイント、読む力が、8.7ポイント、読み解く力では「取り出す力」が、20.1ポイント下回っている。
- 社会では、教科の内容が、2.7ポイント、読み解く力が、6.2ポイント下回っている。教科の内容では、「知識・理解」が、16.6ポイント下回っているが、「関心・意欲」では、4.4ポイント、「思考・判断・表現」では、3.2ポイントと、上回っている。読み解く力では、「取り出す力」が6.2ポイント「解決する力」が、7.2ポイント下回っている。
- 算数では、教科の内容が、4.4ポイント、読み解く力が、3ポイント下回っている。教科の内容では、「知識・理解」が、3.3ポイント、「思考・判断・表現」が3.5ポイント下回っている。読み解く力では、「取り出す力」が4.8ポイントと下回っている。
- 理科では、教科の内容が、4.1ポイント下回っているが、読み解く力は、1.5ポイント上回っている。教科の内容では、「知識・理解」が、5.6ポイント、「思考・判断・表現」が7.1ポイント下回っている。読み解く力では、「取り出す力」が0.3ポイント、「読み取る力」が、2.1ポイント、「解決する力」が2.2ポイント上回っている。

#### ☆教科の内容について

- どの教科においても、「知識・理解」の力に課題がある。繰り返し確認したり、各教科でも取り上げたりしながら、確実な定着を図る必要がある。

#### ☆読み解く力について

- 国語、社会、算数の結果から、「取り出す力」に課題があることが分かる。知識・理解が不十分なため、必要な情報を正確に取り出すことができないと考える。

#### ○学習に関する日常生活の状況について

- 学習に関して、「よく分かる」「どちらかというよく分かる」と答えている児童の割合がどの教科も80%を越えており、正答率と大きな開きがある。児童の、「分かる」という感覚は、「できる」という感覚とは違うものであると考えられる。
- 日常生活の中での「読書」の時間の項目では、読書にかかる時間が長ければ長いほど、どの教科においても正答率が高い傾向にある。但し、全体的に読書は全体に行き渡っていない。
- 家庭学習では、30分未満の児童が50%を超えており、自主的に学習を行っている児童は少ない。家庭学習の習慣付けが大きな課題である。
- 問題文をしっかり読み取ることができず、表面的な数字や単語のみで答えてしまう傾向がある。また、すぐにあきらめてしまう様子も見られる。まず、問題の意味や何を問われているかを問題文からしっかり理解することが必要である。

### 3 児童の学力・学習状況の課題

教科	課題
国語	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を正しく聞き取ったり、最後まで聞こうとしたりする力が十分でない。</li> <li>・読書量、語彙力に大きな個人差がある。</li> </ul> <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順序立てて説明したり、文章を書いたりする力にかなり個人差がある。</li> <li>・大事なことや中心になることは何かを考えて話を聞いたり、メモを取ったりする力に個人差がある。</li> <li>・文字を丁寧に書く意識がまだ低い。</li> <li>・習った漢字を普段の文章に十分活用することができない。</li> </ul> <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いていることを正しく聞き取ったり、要旨を捉えたりすることに苦手意識がある。</li> <li>・伝えたいことの内容の中心を考えて、文章構成をすることに課題がある。</li> <li>・学習した漢字を覚え、使いこなせていない児童が多い。</li> <li>・読み取った文章の意味を理解できていない児童が多い。</li> <li>・読み手を意識し、正しい文章を書くことが苦手である。</li> <li>・筆者の考えの中心を読み取ることができない児童が多く、それに対する自分の考えが構築できない。</li> </ul>
社会	<p>中学年 高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や表など資料から情報を正確に読み取る学習では、理解が不十分なままノートに書き写すだけの学習になってしまうことがある。</li> <li>・複数の資料から適切な資料を選んで活用することが不十分である。</li> <li>・課題を意識して、自分の言葉でまとめることが不十分である。</li> <li>・調べた知識を、実際の生活に活用しようとする意識が薄い。</li> </ul>
算数	<p>全学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な計算力の差が大きい。</li> <li>・時刻や時間や長さ（単位の換算）の単元でつまずく児童が多い。また、感覚的に長さを捉えることが苦手であり、まだ量感が育っていない。</li> <li>・10の補数や数に対していろいろな見方・考え方ができず、おおよその答えを予想するのが苦手である。</li> <li>・単位を正しく書くことが不十分ではある。</li> <li>・問題解決的学習における練り上げ場面において、他者の意見を聞いて理解したり、説明したりすることが苦手な児童が多い。</li> <li>・文章題を読み取る力が充分でなく、計算の意味を理解して演算決定している児童が少ない。</li> <li>・既習事項の定着が不十分な児童が多い。</li> </ul>
理科	<p>中学年 高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフや表などの資料から結果を読み取ることが苦手である。</li> <li>・専門的な用語の知識が不十分である。</li> <li>・目的意識をもって実験・観察することに課題がある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・観察で確認した事象を根拠として結論をまとめることが苦手である。</li> <li>・実験・観察で理解したことを活用することが苦手である。</li> </ul>
体育	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バランス感覚が弱い。</li> <li>・周りの友達や物によくぶつかる児童が多い。</li> <li>・運動感覚が備わっていない。</li> </ul> <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールを使った運動が苦手（特に投げる運動）である。</li> <li>・技能面、体力面で偏りが大きい。（学習したことを他の運動に生かせない。）</li> </ul> <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の技能のポイントを意識しないで、何となく活動している児童が多い。</li> <li>・教え合いに慣れておらず、効果的に教え合うことが十分できていない。</li> <li>・勝ち負けにこだわりすぎる点があり、気持ちよく運動に取り組むことが苦手な児童が多い。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察カード等、見たこと、体験したことを表現することが苦手な児童がいる。</li> <li>・手先を使った作業では、個人差が大きく、かた結びや、ちょう結び、紙を折ったり貼ったりする活動は苦手な児童が多い。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理や裁縫の実習に興味をもって取り組んでいるが、技能面での差や興味、関心の持続に差がある。</li> <li>・生活に関する基本的な知識、経験の差が大きく、自らの生活に十分に生かせない。</li> <li>・家庭での活動が宿題で出た際に、取り組むことができない児童も若干名いる。</li> <li>・落ち着いて座って学習に取り組むことが苦手である。</li> </ul>
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に行っているが、リピートやアンサーの場面では、大きな声が出ない、恥ずかしく目を合わせられない児童もいる。</li> <li>・学習に対する興味・関心に差がある。</li> </ul>

4 授業改善策

教科	課題解決のための手だて・方法
国語	<p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日の音読の家庭学習にしっかり取り組ませ、文章をすらすら読めるようにするため、課題を考えて与える。</li> <li>○経験したことを文章に書く活動を多く取り入れ、文を書くことに慣れさせる。</li> <li>○読み聞かせや読書等、本に親しむ機会を多くする。</li> <li>○話の聞き方のポイントを示し、常に意識させ、自己評価させる。</li> </ul> <p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二人組の対話など、話す・聞く活動を多く取り入れる。話をしたり、聞いたりするときのポイントを掲示し、常に意識させる。話型を示し、課題をもつ子供への支援をする。</li> <li>○書く活動を多くし、書き方（型や表現の仕方）を丁寧に教える。また、苦手な児童には、書きたいことを口頭で言わせてから書くようにさせていく。</li> </ul> <p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字のへん、つくりなど部首仲間分けをしたり、書き順を言葉で表す教材等を活用したりする等、漢字への苦手意識を緩和しながら意欲付けをし、練習させるようにする。</li> <li>○書く活動を多くし、書き方（型や表現の仕方）を丁寧に教える。また、苦手な児童には、書きたいことを口頭で言わせてから書くように指導していく。</li> <li>○初発の感想だけでなく、話のあらすじ、登場人物、場面の様子を踏まえて新たに感想がもてるようにする。</li> </ul> <p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字練習の継続、国語、漢字辞典を活用し、既習漢字の熟語調べや練習で定着を図る。</li> <li>○作文を推敲する力を付けさせる。作文を書く力を付ける。</li> <li>○ICTを活用し、とめ・はね・はらいを意識した漢字学習を行う。</li> </ul> <p>5. 6年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の学習の際には、へんやつくりの意味と結び付けて指導する。</li> <li>○接続語に注意させ、段落相互の関係を図に表すようにする。</li> <li>○家庭学習の中で意図的に国語辞典を使い、語彙を増やす。</li> <li>○文章構成メモを書いてから作文に取り組ませる。</li> <li>○言語活動、話し合い、討論を多く取り入れ、主体的に活動できる場を増やす。</li> </ul> <p>【読み解く力を育む指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題に関わる部分だけを読むのではなく、全体を読んで問題に関わる部分を見付けさせる。</li> <li>○筆者がどのようなことを伝えるために具体例を出しているのか、同じ内容をどのように言い表しているのかを考えさせる。</li> <li>○具体例を通して筆者の込められた思いを考えさせる。</li> <li>○本文に書かれている言葉の意味を正確に捉えたり、前後の文脈から情景描写で作者が伝えたいことを正確に読み取ったりして、物語文の世界を味わわせる。並行読書も行う。</li> </ul>
社会	<p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な生活、地域に結びつけ、自分自身の生活や地域を知る活動になるよう指導する。</li> </ul>

	<p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の中で積極的に絵や地図帳を活用したり、資料を読み取らせたりする機会を意識して多く設ける。</li> </ul> <p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○社会科クイズを行い、関心、意欲の向上を図る。</li> <li>○学習問題を明示し、その答えとしてのまとめをきちんと書かせる。</li> <li>○ICTを使った授業を行い、新聞、インターネットから情報収集と活用を行う。</li> <li>○読み取った情報を記号や表を使って関係性を考えながらまとめさせる。</li> </ul> <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題について自分なりに見通しをもつこと、推論をすること、資料を調べることという問題解決の過程を意識して指導する。</li> <li>○ICTを使った授業を行い、新聞、インターネットから情報収集と活用を行う。</li> <li>○オリンピック、パラリンピックに興味をもてるよう、授業計画を基に学習をする。</li> <li>○知識理解を深めるために、ノート作りを行う。</li> </ul> <p>【読み解く力を育む指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○5W1Hの視点から必要な情報を取り出させる。</li> <li>○問題の共通点、相違点、つながりを考えさせる。</li> <li>○「目的と手段」や「原因と結果」の関係から捉えさえ、「つまり～」を使って説明させる。</li> </ul>
算数	<p>全学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項を根拠に説明することを継続して指導する。</li> <li>○友達の発表に対して自分の意見を付け足すよう促す。</li> </ul> <p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項の復習を繰り返し行い、計算力の積み重ねを行う。</li> <li>○具体物を使って、量感を育てる学習を意識して取り組む。</li> </ul> <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○板書に合わせたノートの取り方を指導する。</li> <li>○九九の習熟の徹底をする。</li> <li>○授業の中で、問題解決に向かう姿を価値付け、児童の言葉として教室に掲示し（ことバンク）、問題解決に取り組む態度を育てていく。</li> <li>○全体の中で個に対する指導を大切にする。</li> <li>○日常的な大きさや量にたとえる場面を授業で取り上げるようにしていく。</li> </ul> <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ノートをお互いに見合ったり、評価し合ったりする活動を取り入れ、思考の過程が残るようなノート作りを意識させる。</li> <li>○習熟度別指導で、個別の課題に応じた指導を工夫する。</li> <li>○文章問題の文章に書かれていることを理解する時間をとったり、式の意味を理解する時間をとったり、簡単な数字に置き換えたり、図や表をかかせるなどの指導を通して、演算決定ができるようにする。</li> <li>○中学校の連携を意識し、四則演算の徹底をする。</li> </ul>

	<p>○基準量・比較量など、割合の考え方への理解を深めるために、数直線などの図に表して考えることが出来るようにする。</p> <p>○校内研究の柱である「問いと共有」を意識した授業を展開し、児童の学習に対する意欲を高めるとともに、話し合いの場の設定を行い、主体的・対話的な授業展開を意識する。</p> <p>【読み解く力を育む指導】</p> <p>○問題文を把握する力を付ける。課題は何かを明らかにする。</p> <p>○実際に操作して問題の条件を捉えさせる。</p> <p>○具体物を用いて数値が何を表しているか確認させる。</p> <p>○それぞれの考え方の共通点、相違点を話し合い、より良い考えを判断し活用する。</p> <p>○文章問題に書かれている場面をイメージして文章で問われている内容を確実に捉えられるようにする。</p>
理科	<p>全学年</p> <p>○ポイントや条件がわかるよう提示する等、活動前の準備を大切にす。</p> <p>3年</p> <p>○学習に出てきた用語を使って、実験の振り返りやまとめをし、基本事項を押さえる。</p> <p>○実験方法や予想、結果、分かったことをノートに取る活動を入れる。</p> <p>4年</p> <p>○実験方法や予想、結果、分かったことをノートにまとめる活動を入れる。</p> <p>5年</p> <p>○新しい実験の際に、既習の実験方法や器具の使い方を再確認する。</p> <p>○問題把握→予想→実験方法の検討→実験→結果考察→結論の学習過程で授業を行う。</p> <p>○体験活動を取り入れ、自ら考え、仮説を立てる授業を多く行い、</p> <p>○実験等を行い、分かったことなど、その知識を定着させる時間を設定する。</p> <p>6年</p> <p>○観察や実験の予想、実験方法を考え、観察や実験の結果をもとに考察をさせ、ノートにまとめる指導を継続する。</p> <p>○実験の目的を明確にし、科学的な思考が育つ話し合い活動、体験活動を積極的に取り入れる。</p> <p>【読み解く力を育む指導】</p> <p>○資料を多く活用し、変化や違いを正確に読み取らせる。</p> <p>○資料から読み取ったことを関連付けて、推論させる。</p>
音楽	<p>低学年</p> <p>男女関係なく交流できる表現活動を多く積み重ねる。</p> <p>中学年・高学年</p> <p>○練習した成果を出せるように、発表する機会を設ける。</p> <p>○譜読みの苦手な児童には、階名を書いた楽譜を用い、技能の習得に集中させる。</p> <p>○授業中に習得できなかった部分の大きい児童に対しては、休み時間、放課後等を活用して個別指導をする。</p>

<p>図工</p>	<p>全学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業規律の徹底、あいさつ、返事をする習慣付けをする。</li> <li>○安全に作業できる学習環境を作る。</li> </ul> <p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容の説明の際には、全員が聞いて分かるようにグループに分ける等の工夫をする。</li> </ul> <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○作品のイメージをつかみやすくするために、具体的な作品や資料の提示を増やす。</li> </ul> <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時の授業のめあてを明確にし、提示し意識させる。</li> </ul>
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活経験の異なる児童同士で教え合ったり、学び合ったりできるように、席順やグループ編制を工夫する。</li> <li>○日常生活に役立つような実習を多くし、具体的に考え、楽しく実践できるようにしていく。</li> <li>○事前学習や事後学習をしっかりと行い、学習の過程を記録させる。</li> <li>○担任が指導支援に入り、手厚い授業を展開する。</li> </ul>
<p>体育</p>	<p>全学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○集団行動の基本を身に付けさせる。</li> </ul> <p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体づくり運動など、多様な動きを取り入れた運動をさせる。</li> <li>○様々なあそびを経験させ、体の使い方を養う。</li> <li>○鬼遊びや、固定施設を使った運動を多く取り入れる。</li> </ul> <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○規則の提示など、分かりやすく徹底できるようにする。よりよい規則の工夫への話し合いを行う。</li> <li>○友達のよさを認める時間を設定する。</li> <li>○高学年の動きのもとになるよう、ポイントを意識して指導していく。</li> <li>○日常的な活動の一環として年間を通して外遊びをすすめ、体力をつける。</li> <li>○勝ち負けにこだわりすぎることなく、楽しく、協力して活動に取り組めるよう指導する。</li> </ul> <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○動きのポイントを教師側が明示する。</li> <li>○ペア学習やグループ学習の際には、どのポイントを意識して練習するのかめあてをしっかりとさせ、見る視点を共有させる。</li> <li>○学習カードを用いて、めあてを立てさせるとともに、振り返りと自己評価を行う。</li> <li>○勝ち負けにこだわりすぎることなく、協力して、楽しく、全力で活動に取り組むことが貴いという指導を繰り返し行う。</li> </ul>
<p>生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「観察時のポイント」を常に掲示するなどの工夫をする。</li> <li>○他の児童が発見したことや感じたことを聞いたり、良さを見付けたりする活動を多く取り入れる。</li> <li>○手先を使った作業をできるだけ多く取り入れ、できることを増やしていく。</li> <li>○活動の楽しさを十分に味わわせ、表現活動の幅を広げる。具体的には紙芝居、絵本、絵日記、ペープサート、劇化などで表現し、考える経験を積み重ねていく。</li> <li>○児童の作品やつぶやき、自己評価を取り入れたカード、相互に教え合う活動や表現活動等から、児童が気付いたことを教師が見取り、価値付けて全体に返すようにする。また、保護者のボランティア</li> </ul>



	<p>アも活用し、児童の活動を安全にかつ把握できるようにする。</p> <p>○地域のお店や施設に出向き、実際に地域の方と交流する活動を計画的に設定する。</p>
外国語活動	<p>○ゲームなどの活動を取り入れながら、児童が楽しめ、一人一人が活躍できる場を設定する。</p> <p>○ALTと担任が連携し、大きな声で話しても恥ずかしくないと感じさせる雰囲気を作る。</p> <p>○中学校の教員との連携をし、指導に生かす。</p>

(別紙) 家庭でできる、学力向上に向けた取組(学校とともに協力していただきたいこと)

○ 宿題は毎日必ず行いましょう。

学校からは、毎日宿題として家庭学習の課題を出しています。特に漢字練習や計算練習は反復が大切です。そのために毎日課題を出しています。ぜひ、お子さんの宿題を確認してみてください。お子さんの学習の様子を知ることできます。また一緒に考えてあげたり、丸付けをしたりしてあげて、お子さんの成果を確かめるとともに、できたこと、頑張ったことをたくさん褒めてあげてください。

○ 音読をしましょう。

声に出して読むことは、文字を目からだけでなく音声として耳からも入り、言葉や文章の内容がより理解しやすくなります。また、情感を考えて読むことは表現力を高めることにつながります。音読は聞く相手がいることでより効果を発揮します。聞いてもらう人により分かりやすく伝えようとすることで、読み方をより深く考えるようになります。豊かな感情を育むにはとても大切なことです。

○ 新聞やテレビのニュースの話題を一緒に考えてみましょう。

調査結果から、「新聞やテレビのニュースに関心をもって読んだり見たりしている」とことと、国語、算数の正答率の関連を見ると、「関心をもっている」児童ほど、国語、算数の正答率が高くなっていることが分かりました。また、国土や気象などの情報は直接社会や理科の学習にも関わることが多くあります。

新聞やテレビのニュースの情報は児童にはすぐに理解できないことも多いですが、例えばその出来事の場合はどこか、都道府県名やその土地に由来する物事を一緒に考えてみたり、興味のある新聞の記事の内容を一緒に読んでみたりすることで、学習への関心や問題を解決するために必要なことを調べる活動のきっかけにつながると考えられます。

○ 家族のコミュニケーションを大切にしましょう。

学校での出来事や様子を子どもからたくさん聞いてみてください。その際の言葉の使い方に気を付けてみましょう。言語は、論理や思考、コミュニケーション、感性・情緒の基盤となるものです。したがって、我々大人が適切な言葉で話すことが子どもたちの言葉を整えていくことにつながるのです。単語でのやり取りではなく、5W1H(いつ・どこで・だれと・なにを・どのように・どうした)を意識した会話を目指します。

○ 家庭での学習習慣、基本的な生活習慣の一層の確立を行う。

過去の調査結果からも、家庭での学習習慣の確立、基本的な生活習慣の確立が、学校での学習を支える大切な基盤になっていることが明らかになっています。先に述べた宿題もちろんのこと、家庭での学習時刻・時間・場所の設定、テレビやゲーム等の利用の仕方のルールの設定、読書の習慣等について、家庭でよく話し合い、きちんと決めていくことが大切です。

学校でも『幸スタンダードTH29』を示し、児童が最低限の授業規律、生活規律を身に付け、学校や学級の中で自分の果たすべき役割を明確にし、社会の一員としての自覚を高めることを目指して取り組んでいます。これは学校だけでは難しく、ご家庭でも折に触れて確認していただくことが、その効果を高めるものと考えています。学校と家庭・地域が連携し子供たちの学習や生活の充実を図っていきましょう。

☆ここに挙げさせていただいたことは、一例です。この他にも子どもの実態や家庭の事情等を考慮され、各ご家庭でできることを考えてみていただけるとありがたいです。ご協力をよろしくお願い致します。